

平成29年度 胃がん内視鏡検診成績

新潟市医師会メジカルセンター
新潟市医師会胃がん検診検討委員会

はじめに

平成29年度の新潟市の対策型胃がん検診のうち内視鏡による検診の成績を報告する。検診自体は平成30年3月末で終了しているが、治療も含めた最終結果の集積のため、例年報告を一年後としていた。報告が遅くなったことをお詫び申し上げる。

平成15年度に胃内視鏡検診が開始されて以来、今回の集計は15年目の検診報告となる。平成15年度の受診者は8,122名であったが平成29年度には44,097名まで増加し、受診者は5.4倍となっている。また、微減を続けている直接X線検診は、平成28年度より598名減少し12,322名であった。集団検診の9,783名を加えると、合計では66,202名となり、前年度より2,155名減少した。新潟市の胃検診カバー率は、平成28年度より0.8%低い22.0%であった。

受診件数とダブルチェック率（表1、2）

表1に施設検診の受診者数の推移とその内訳を示した。内視鏡検診受診者は平成28年度より992名減少し44,097名であった。また、施設X線検診は598名減少し12,322名であった。

専門医が2名以上いる施設では、自施設でのダブルチェックが認められており、その施設は平成28年度より1施設増え、16施設であった。委員会のダブルチェックを要する検診施設は124施設と前年に比し2施設減少している（表2）。また委員会でのダブルチェックを要する症例は33,640例と昨年度に比して742例減少し、全症例での比率は78.2%で昨年に比して殆ど変りはない。委員会によるダブルチェックは各検診施設で撮影された画像の提出で行われるが、3例が機器等の故障で画像が提出されなかった。これらの症例では単に画像の撮影のみが不

表1 年度別胃がん施設検診数

検査術式		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
内視鏡 検査	委員会ダブルチェック	6,326	9,153	13,087	17,136	20,940	24,608	27,038
	施設内ダブルチェック	1,796	2,572	4,561	6,751	7,817	8,275	8,345
	計	8,122	11,725	17,648	23,887	28,757	32,883	35,383
X線直接撮影		28.8%	38.1%	47.0%	55.3%	60.7%	64.9%	67.1%
		20,059	19,025	19,916	19,335	18,601	17,808	17,362
		71.2%	61.9%	53.0%	44.7%	39.3%	35.1%	32.9%
合 計		28,181	30,750	37,564	43,222	47,358	50,691	52,745

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
29,083	*30,071	*31,882	*33,360	*34,169	*33,220	*34,382	*33,640
8,471	8,573	9,424	9,914	10,112	10,361	10,707	10,457
37,554	38,644	41,306	43,274	44,281	43,581	45,089	44,097
69.2%	71.3%	73.7%	76.0%	76.8%	76.3%	77.7%	78.2%
16,704	15,525	14,744	13,687	13,386	13,518	12,920	12,322
30.8%	28.7%	26.3%	24.0%	23.2%	23.2%	22.3%	21.8%
54,258	54,169	56,050	56,961	57,667	57,099	58,009	56,419
読影不能例*	14	19	18	20	7	8	3

表2 年度別検診機関数

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
123	125	125	129	129	125	126	124
14	13	14	14	14	15	15	16
137	138	139	143	143	140	141	140

療を内視鏡的切除で行っており、早期に発見することのできた人のQOLにも大きく貢献している。

発見胃がんのうち、ひとかきがんの項目があるが、これは生検でがんと診断され、さらに内視鏡所見で十分な早期胃がんの所見を示しているが、治療時はがんが検出出来なかった症例である（生検での過剰診断の可能性が高い例は除いている）。これらの症例は生検でがん細胞が全部脱落してしまったか、或いは小さくなり過ぎて治療時発見困難となったかのいずれかと

表 3 検診成績

早期胃がん 231例中、内視鏡切除179例
進行胃がん 43例中、非切除9例（化学療法6、治療なし3）
早期食道がん 44例中、内視鏡切除29例
その他の悪性腫瘍 胃MALTリンパ腫
GIST
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
十二指腸がん
十二指腸カルチノイド腫瘍

早期胃がん 231例中、内視鏡切除179例
進行胃がん 43例中、非切除9例（化学療法6、治療なし3）
早期食道がん 44例中、内視鏡切除29例
その他の悪性腫瘍 胃MALTリンパ腫
GIST
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
十二指腸がん
十二指腸カルチノイド腫瘍

表 4 年度別発見がん数（全がん＝胃がん＋その他の悪性腫瘍）

検査 術式	発見 がん	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
		検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん
内視鏡 検査	胃がん	8,122	65 (0.80%)	11,725	102 (0.87%)	17,648	132 (0.75%)	23,887	254 (1.06%)	28,757	290 (1.01%)	32,883	296 (0.90%)	35,383	325 (0.92%)	37,554	309 (0.82%)
	全がん		74 (0.91%)		120 (1.02%)		160 (0.91%)		303 (1.27%)		339 (1.18%)		353 (1.07%)		373 (1.05%)		374 (1.00%)
X線 直接 撮影	胃がん	20,059	62 (0.31%)	19,025	61 (0.32%)	19,916	78 (0.39%)	19,335	64 (0.33%)	18,601	67 (0.36%)	17,808	49 (0.28%)	17,362	54 (0.31%)	16,704	42 (0.25%)
	全がん		66 (0.33%)		64 (0.34%)		84 (0.42%)		78 (0.40%)		74 (0.40%)		57 (0.32%)		62 (0.36%)		51 (0.31%)
合 計	胃がん	28,181	127 (0.45%)	30,750	163 (0.53%)	37,564	210 (0.56%)	43,222	318 (0.74%)	47,358	357 (0.75%)	50,691	345 (0.68%)	52,745	379 (0.72%)	54,258	351 (0.65%)
	全がん		140 (0.50%)		184 (0.60%)		244 (0.65%)		381 (0.88%)		413 (0.87%)		410 (0.81%)		435 (0.82%)		425 (0.78%)

検査 術式	発見 がん	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん	検査 件数	発見 がん
内視鏡 検査	胃がん	38,644	313 (0.81%)	41,306	338 (0.82%)	43,274	326 (0.75%)	44,281	330 (0.75%)	43,581	339 (0.78%)	45,089	306 (0.68%)	44,097	290 (0.66%)
	全がん		381 (0.99%)		391 (0.95%)		403 (0.93%)		411 (0.93%)		416 (0.95%)		377 (0.84%)		363 (0.82%)
X線 直接 撮影	胃がん	15,525	51 (0.33%)	14,744	43 (0.29%)	13,687	42 (0.31%)	13,386	33 (0.25%)	13,518	48 (0.36%)	12,920	30 (0.23%)	12,322	28 (0.23%)
	全がん		59 (0.38%)		50 (0.34%)		46 (0.34%)		40 (0.30%)		59 (0.44%)		34 (0.26%)		36 (0.29%)
合 計	胃がん	54,169	364 (0.67%)	56,050	381 (0.68%)	56,961	368 (0.65%)	57,667	363 (0.63%)	57,099	387 (0.68%)	58,009	336 (0.58%)	56,419	318 (0.56%)
	全がん		440 (0.81%)		441 (0.79%)		449 (0.79%)		451 (0.78%)		475 (0.83%)		411 (0.71%)		399 (0.71%)

表 5 読影基準別発見がん

読影基準	件数 A	率 A/総数	発 見 胃 が ん						胃がん以外の悪性腫瘍		計	
			総数 B	率 B/A	確 定 胃 が ん				総数 C	率 C/A	総数 D	率 D/A
					進行	早期	ひとかき	深達度不明				
1	15,351	45.6										
2	438	1.3										
3	16,925	50.3	197	1.16	31	152	3	11	44	0.26	241	1.42
4	132	0.4	6	4.55	1	5			2	1.52	8	6.06
5	272	0.8	3	1.10		3			1	0.37	4	1.47
6	519	1.5	6	1.16		6			1	0.19	7	1.35
読影不能	3											
計	33,640		212	0.63	32	166	3	11	48	0.14	260	0.77

【読影基準】 1、検診医と読影医ともに「異常なし」
 2、検診医「有所見」、読影医「異常なし」
 3、検診医と読影医ともに「有所見（同一診断）」
 4、検診医「有所見」、読影医同部位の「別診断」
 5、検診医「有所見」、読影医別部位の「別所見」
 6、検診医「異常なし」、読影医「有所見」

考えられる。そのため主治医にはその後の慎重な経過観察をお願いしたい。

さらに内視鏡検診では食道がんが56例、0.13%（胃がんに対して19.3%）と高い発見率を示している。早期食道がん率は78.6%、内視鏡切除率は29例65.9%であった。

その他の悪性疾患としては、MALTリンパ腫、GIST、十二指腸がんなどが発見されている。

表4には内視鏡検診の始まった平成15年度からの胃がん及びその他の悪性腫瘍を含めたがん全体の発見率の推移を示した。

内視鏡検診の発見胃がんは290例、発見率は0.66%と減少しているが高レベルの検診を維持していると考える。先生方のご努力に感謝したい。

ダブルチェックの効果（表5、6）

表5に読影委員会での読影結果を示した。検診施行時の診断とダブルチェック時の診断の一致は読影可能症例の33,637例中32,276例（読影基準1と3）96.0%であった。

そのうち「異常なし」の一致が45.6%で、「有所見」の一致が50.3%であった。519例、1.5%は

表6 施設内チェックと委員会チェックとの比較（胃がん＋他のがん）

1

がん全体	検査件数	施行率（％）	発見がん	発見率（％）
読影委員会チェック	33,637	76.3	260	0.77
施設内チェック	10,457	23.7	103	0.98
計	44,094	100	363	0.82

2

胃がん	検査件数	施行率（％）	発見がん	発見率（％）
読影委員会チェック	33,637	76.3	212	0.63
施設内チェック	10,457	23.7	78	0.75
計	44,094	100	290	0.66

3

早期胃がん	検査件数	施行率（％）	発見がん	発見率（％）
読影委員会チェック	33,637	76.3	166	0.49
施設内チェック	10,457	23.7	65	0.62
計	44,094	100	231	0.52

4

早期胃がん（含ひとかき）	検査件数	施行率（％）	発見がん	発見率（％）
読影委員会チェック	33,637	76.3	169	0.50
施設内チェック	10,457	23.7	65	0.62
計	44,094	100	234	0.53

※読影不能3例を含まない

検診医の読影「異常なし」に対して新たな所見の追加がされた症例であった。その中で6例の早期がんが発見された。

表6は自施設でダブルチェックが可能な16施設と委員会でのダブルチェック施設124施設とのがん発見率を比較した。両者で明らかな差が見られるが、年々差は縮まっている。

おわりに

平成29年度の検診結果について述べたが、なるべく早く平成30年度の成績をまとめ報告したい。

また令和元年度から、2年に1回の検診となったので、検診数が減ったのは言うまでもないが、令和2年4月から8月までの検診数（1,890人）と平成30年度の同時期（3,255人）を比較すると、激減している。緊急事態宣言解除後も新型コロナウイルス感染症が気になり受診を控えている住民が多いと思われる。『がん検診の早期発見・早期治療の重要性』はいささかも変わりがないと考える。確実に感染防護策を実施し、検診を行って頂き、また住民にも検診受診の重要性を啓蒙していくようお願いしたい。